

旭中央病院・匝瑳市民病院医療連携協議会

資料①

事業環境を踏まえた連携内容と匝瑳市民病院の整備パターン案

野村ヘルスケア・サポート&アドバイザー株式会社

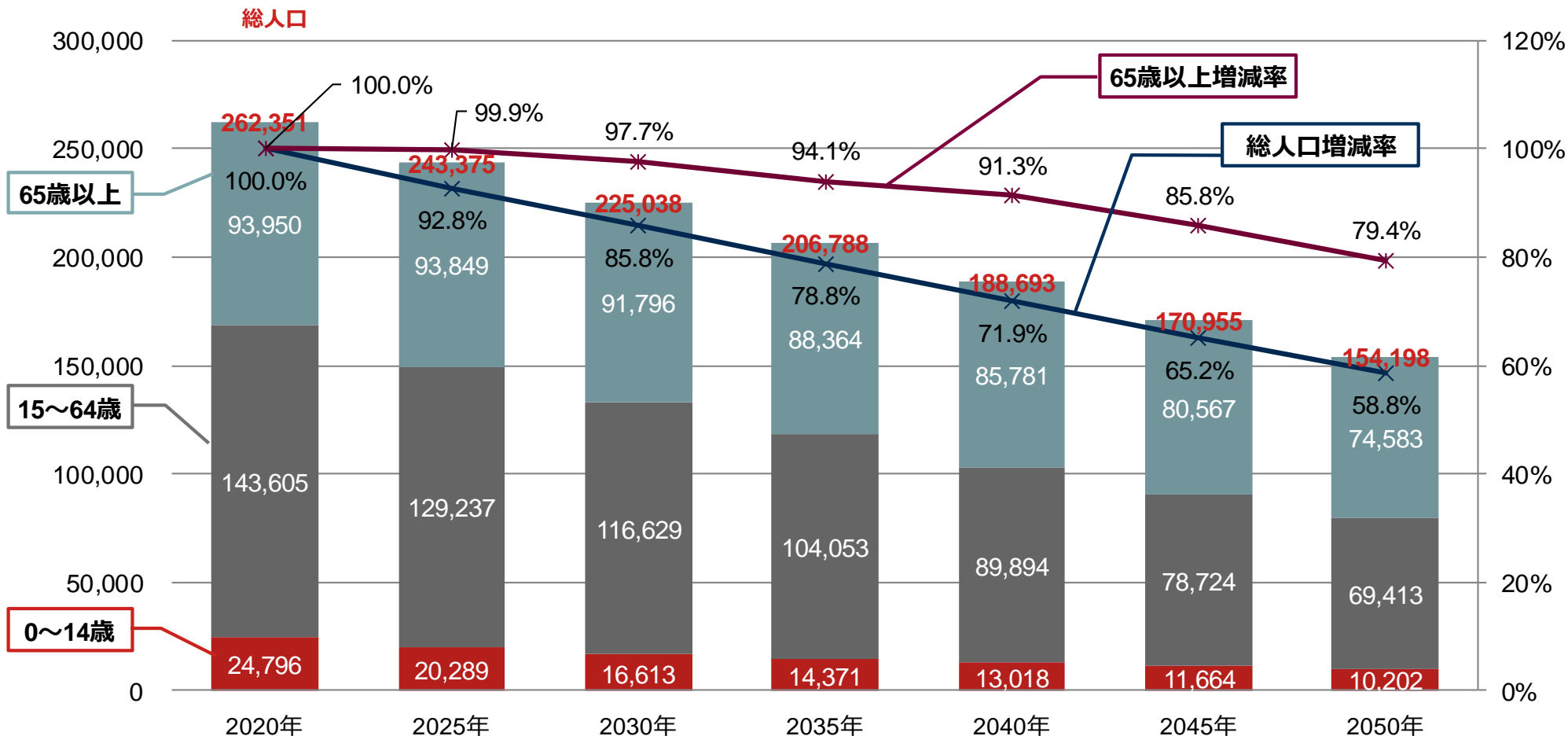
2024年2月7日

- | | | |
|----|----------------------------------|------|
| 1. | 両院を取り巻く環境 | P.2 |
| 2. | 国保旭中央病院との連携内容による国保匝瑳市民病院の整備パターン案 | P.12 |
| 3. | 整備パターン案ごとの評価 | P.14 |

1. 両院を取り巻く環境

香取海匠地域の人口動態

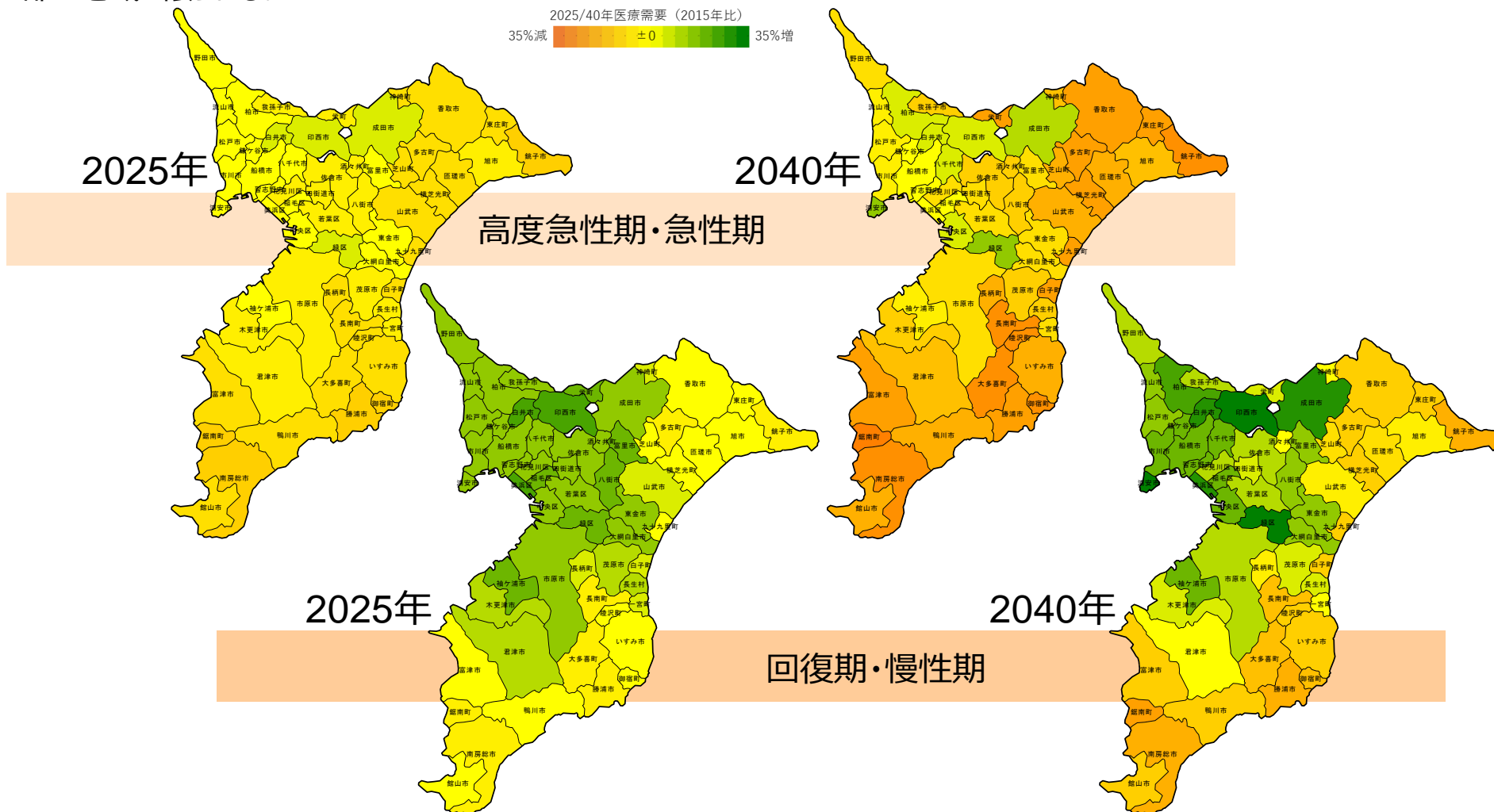
- ✓ 香取海匠地域の人口は将来的に大きく減少し、2050年には現状から4割強減少する見込み。
- ✓ 特に0~14歳、15~64歳人口の減少が大きく、少子高齢化が進展する予測となっている。



出所：社人研「将来推計人口」をもとに野村ヘルスケア作成

千葉県 市区町村ごとの将来医療需要 (2015年比)

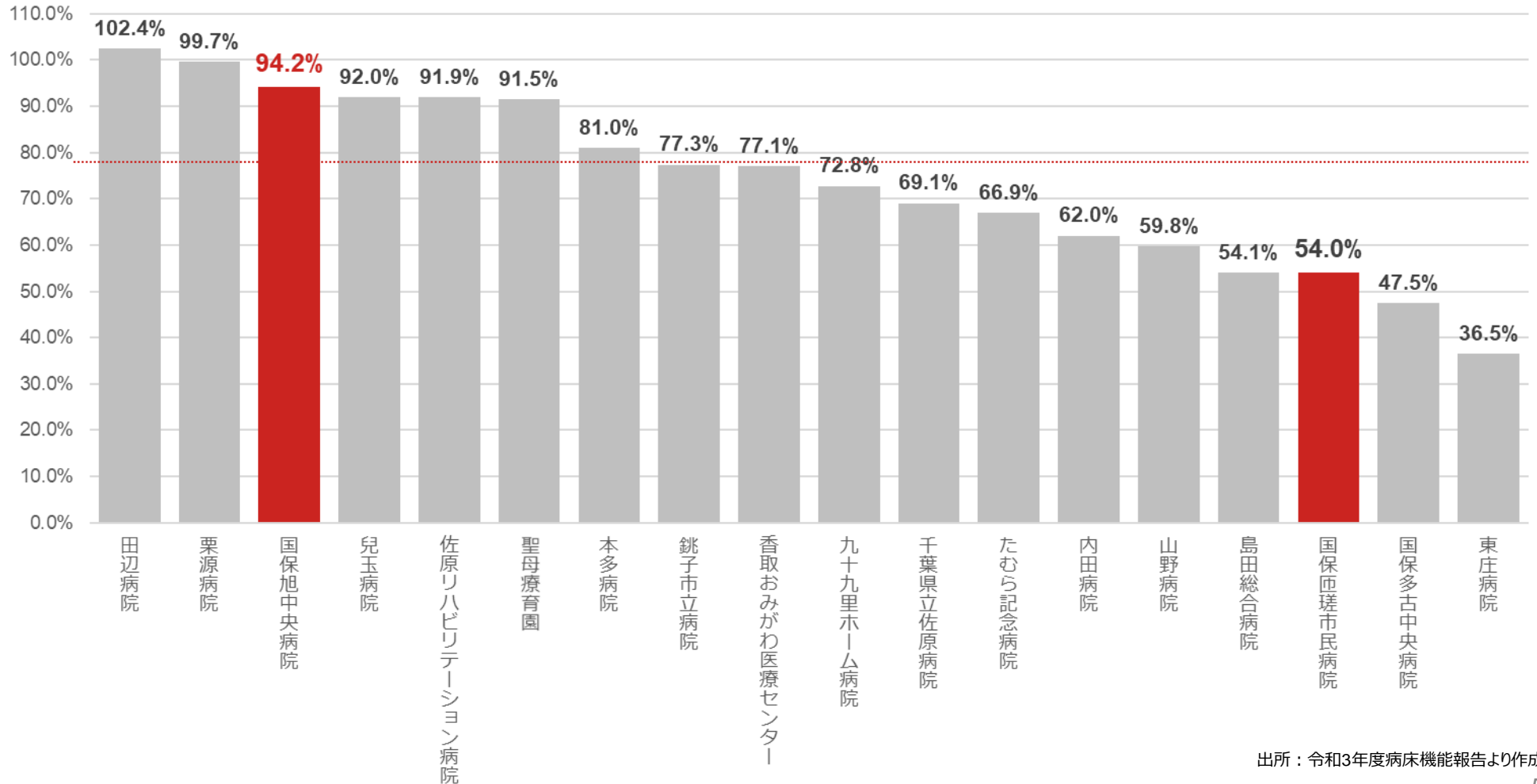
- ✓ 医療技術の進展等を見逃し、現状の受療率が継続としても、高度急性期・急性期の医療需要が2040年まで続くのは一部の地域に限られる。



出所：医療・介護需要 国立社会保障・人口問題研究所 将来人口推計、厚生労働省 患者調査、厚生労働省 社会医療診療行為別統計等を基に独自推計

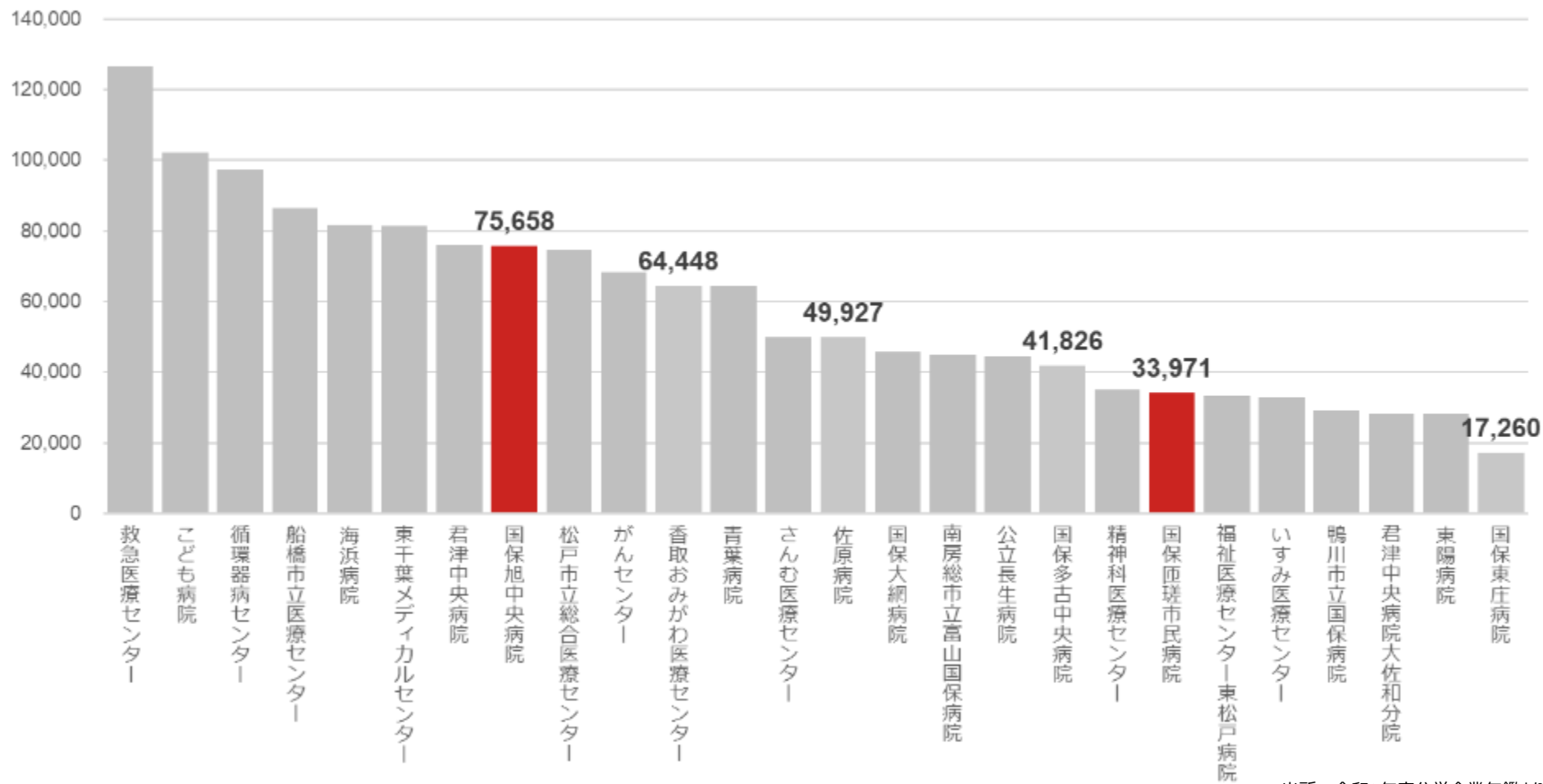
香取海匠地域の 医療機関別病床稼働率（2021年度・直近）

- ✓ 急性期基幹病院である国保旭中央病院の病床稼働率は94.2%であり、高い水準にある。
- ✓ 国保匝瑳市民病院の病床稼働率は54.0%と低い水準にある。



千葉県内地方公営企業病院の 入院診療単価（2021年度・直近）

✓ 2021年度の公営企業年鑑によると、国保旭中央病院の入院診療単価は75,658円、国保匝瑳市民病院は33,971円である。

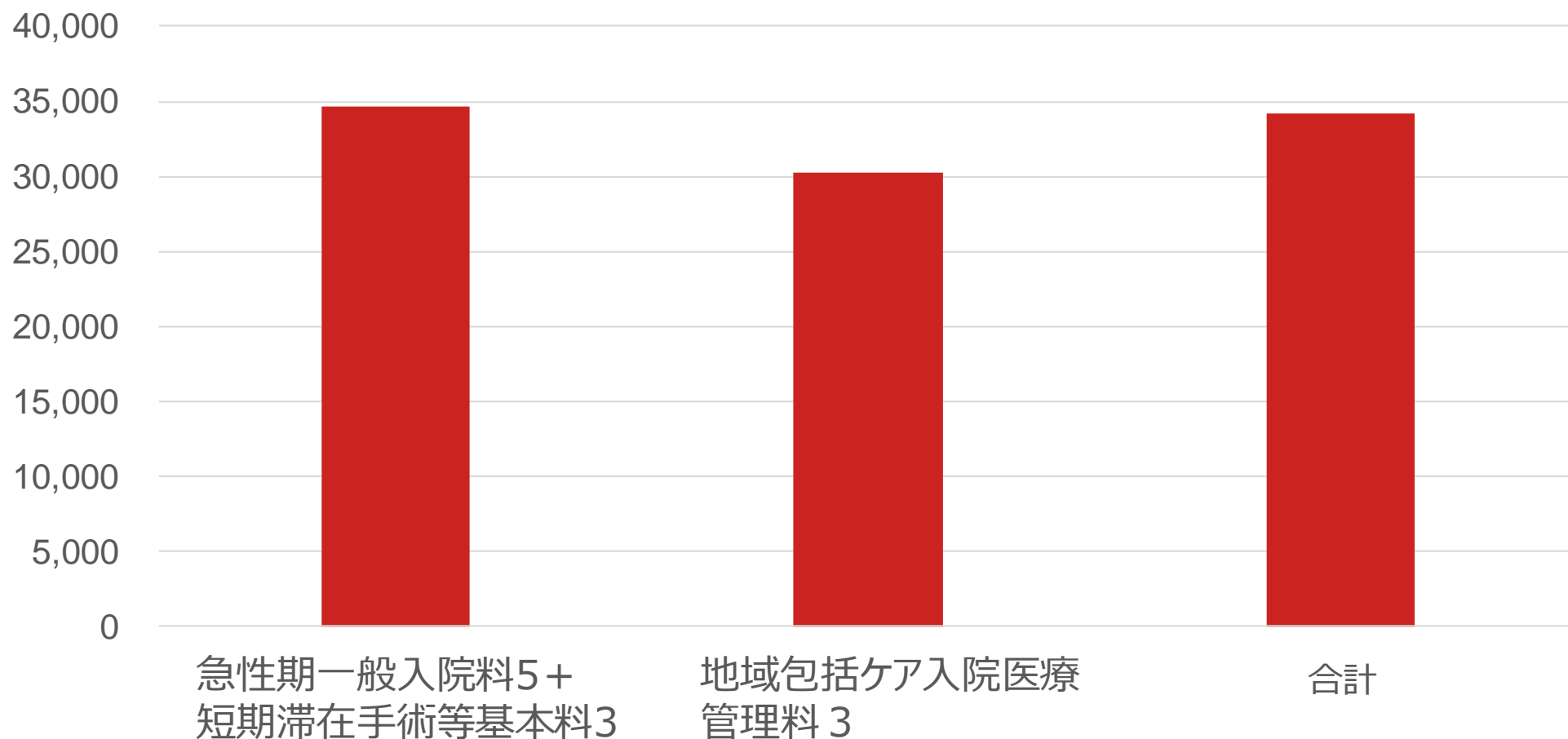


出所：令和3年度公営企業年鑑より作成

匝瑳市民病院の入院単価概況（入院料ごと）

急性期一般入院料5と短期滞在手術等基本料3の合計が3万4千円程度、地域包括ケア入院医療管理料3が3万円程度

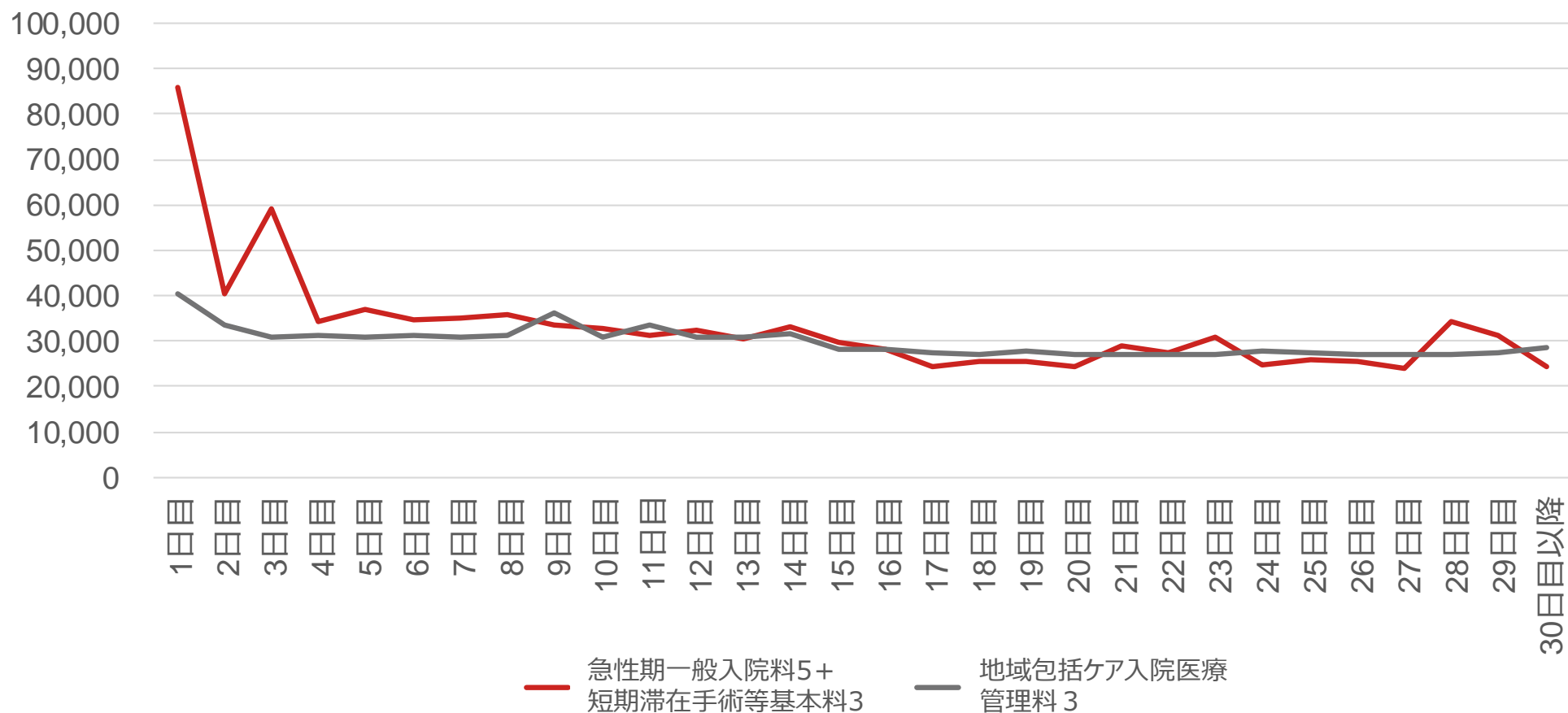
入院単価



匝瑳市民病院の入院経過日数による 入院単価推移（入院料ごと）

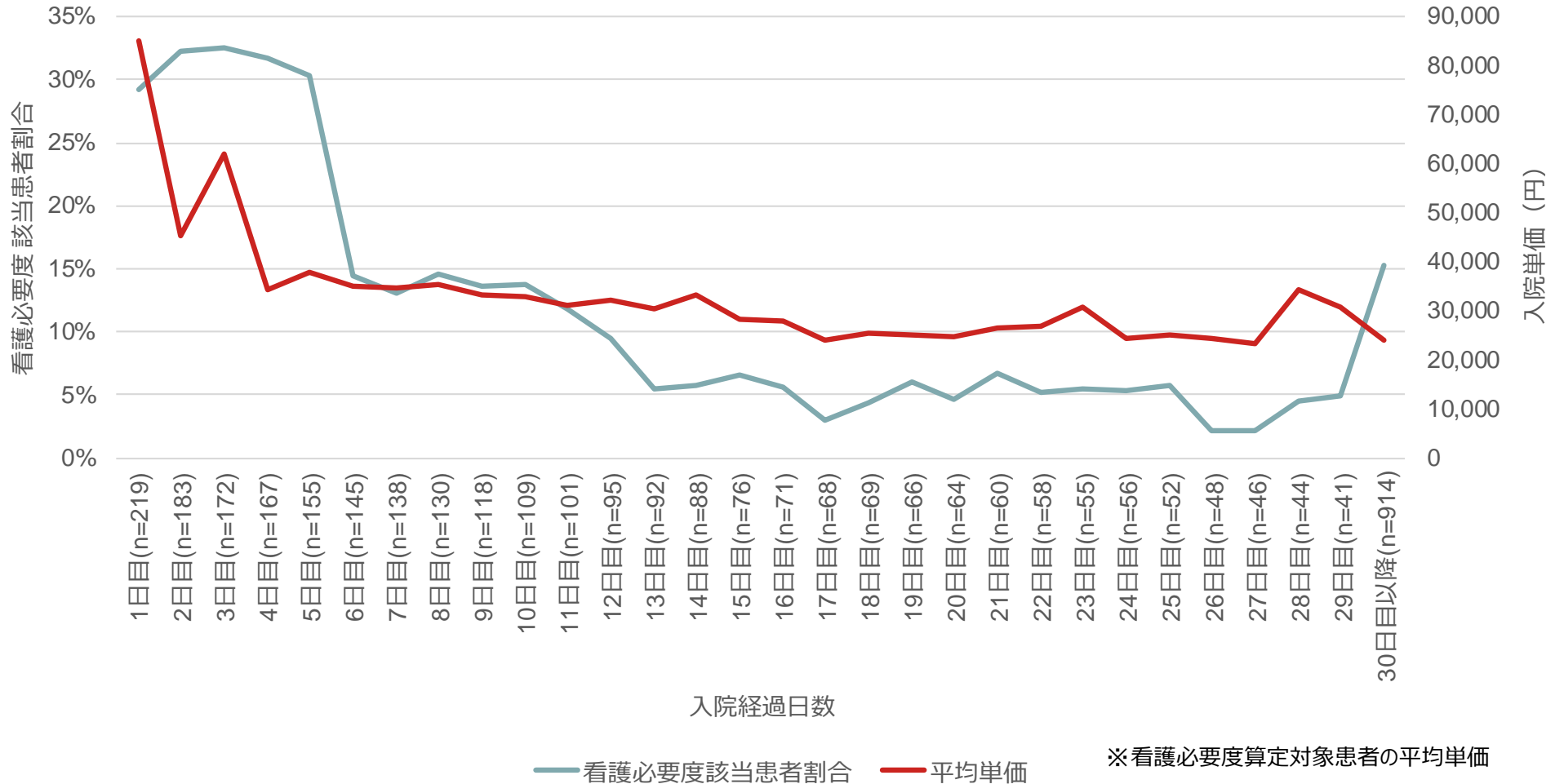
急性期一般入院料 5は、入院 8 日目まで地域包括ケア入院医療管理料 3 を上回っているものの、それ以降、急性期一般入院料 5 と地域包括ケア入院医療管理料 3 でほとんど差異がない

入院経過日数による平均単価推移



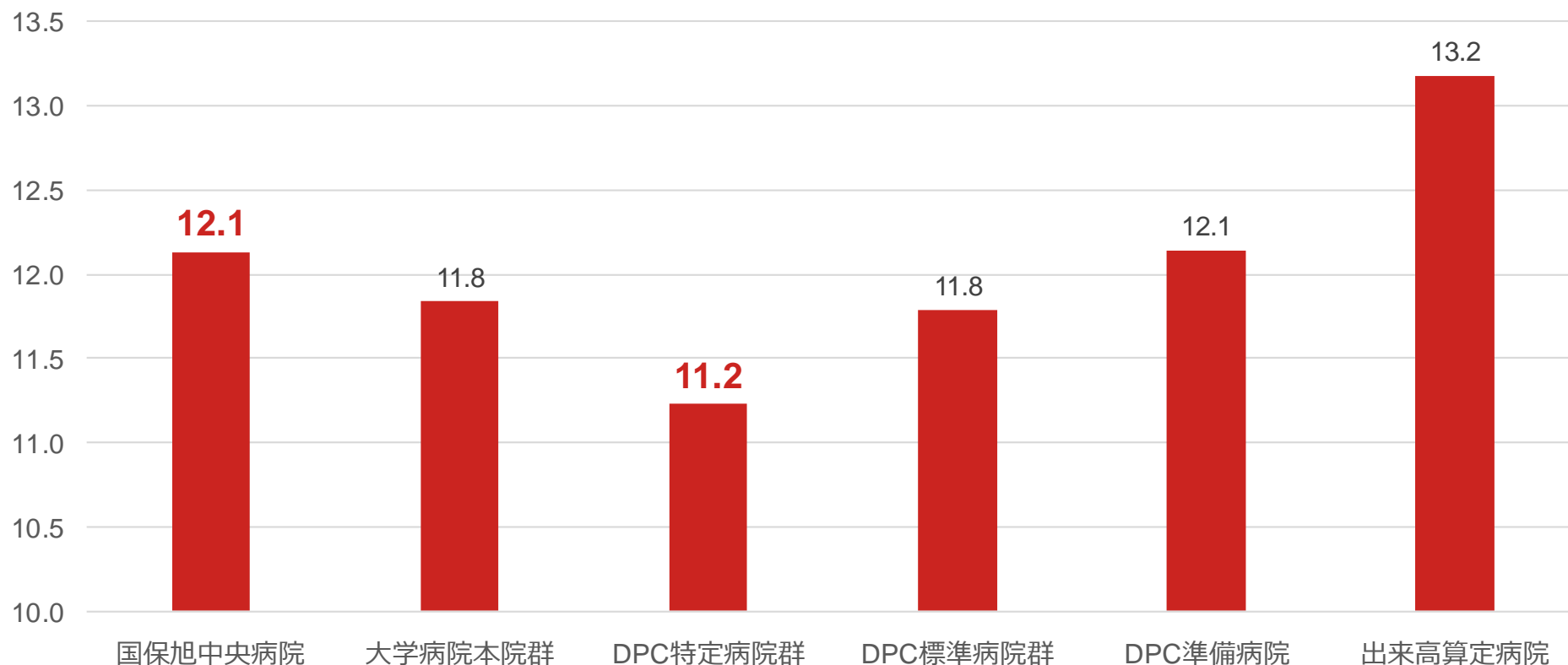
匝瑳市民病院の入院経過日数による 急性期一般病棟の看護必要度推移

入院5日目までは救急医療管理加算の算定患者、入院10日目前後までは外科・整形外科の手術患者が多いことが主要因となり、看護必要度が高くなっているものの、2週間を過ぎると、看護必要度は5%前後まで低下してしまう



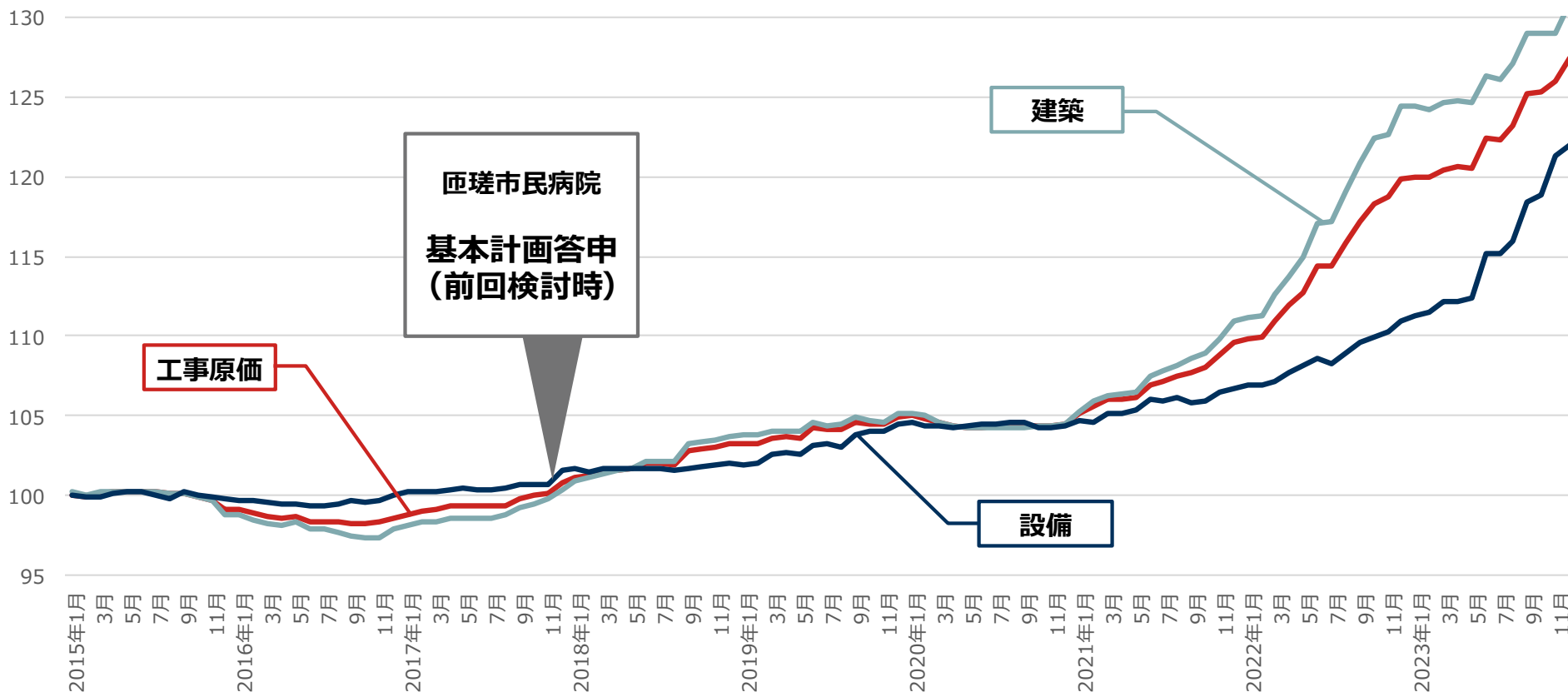
- ✓ 国保旭中央病院の令和3年度の平均在院日数は12.1日。
- ✓ 同院が属するDPC特定病院群（高度急性期病院群）の平均11.2日と比較すると、平均在院日数が長めの傾向にある。

▼ 令和3年度施設類型別平均在院日数（DPC病床のみ）




公表資料から建築費（病院、RC造、東京）についてみると、
2015年1月を100とすると、直近の2023年12月は「建築」で130.9、「設備」は122.0まで急激に上昇している。

▼ 標準指数（病院RC、東京） 2015年平均 = 100



2. 国保旭中央病院との連携内容による 国保匝瑳市民病院の整備パターン案



国保旭中央病院との連携内容による 国保匝瑳市民病院の整備パターン案

別紙参照。

3. 整備パターン案ごとの評価

- ✓ 建築費が高騰している中で、将来需要に即した病床数にすることが、開院後の健全経営のためには望ましい。
- ✓ 生産年齢人口の減少を踏まえると、職員確保の観点も重要な論点となる。

- ✓ 上記観点からは、地域需要に即した回復期中心に機能転換し、60床にダウンサイジングするC-2・C-3案が望ましい。
- ✓ 1看護単位となることで、運営の効率化も図られる。
- ✓ ただし、回復期病床の運営のためには、匝瑳市における在宅医療や介護等の体制が整うこと、旭中央病院とのさらなる連携が重要となる。
- ✓ 現時点においても60床以上の病床が埋まることがあり、現状規模との違いが比較的大きいのは留意点である。
(C-2案は6案中で、現状規模・機能との違いが最も大きい案となる)

- ✓ B-1・B-2案は、現状の急性期機能を一部残し、需要のある回復期機能を拡大していくことで、地域ニーズに即した機能に転換する。
- ✓ 病床数としては73床とすることでダウンサイジングされるが、小幅のため、C-2・C-3案と比較すると、建築コスト、収支の赤字幅ともに大きく、また、2看護単位となるため、より多くの職員確保が必要となる点は留意点である。B-1案では、特にこうした課題がより大きくなる。

- ✓ B-3案は、建築コストの高騰を踏まえ、選択肢としては劣後。C-1案は現状機能との違いの大きさに留意が必要。

- ✓ 以上を踏まえると、C-3案またはB-2案（場合によりB-1案）が望ましいが、最終的な整備パターンの詳細を決めるためには、匝瑳市においてさらなる検討が必要。また、両案いずれの場合も、将来的な住民ニーズの質的・量的変化を見越した規模や機能の見直しが行えるようあらかじめ検討しておくことなども重要である。

整備パターンごとの評価

評価軸		A (両院の連携 は現状維持)	B (旭中央病院と匝瑳市民病院の機能分化・ 一部回復期への機能転換)			C (匝瑳市民病院の回復期への機能転換)		
			B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3
		基本構想・基本 計画のまま整備	一部機能の見直しと 旭中央の転院受入増	一部機能の更なる見直し と旭中央の転院受入増	回リハ設置と旭中央の 転院受入拡大	匝瑳の機能転換	匝瑳の機能転換と投資抑 制・経営効率向上	匝瑳の機能転換と一部を 急性期病床として運用
病床数	総数	80床	73床	73床	87床	73床	60床	60床
	急性期	60床	40床	30床	20床	-	-	20床
	回復期	20床	33床	43床	67床 (うち回リハ27)	73床	60床	40床
旭中央からの 想定転院数		- (現状維持)	13床 (想定数の5割)	13床 (想定数の5割)	27床	27床	13床 (想定数の5割)	13床 (想定数の5割)
正規職員数		116.7人	121.8人	117.2人	133.7人	118.3人	112.7人	117.1人
初期投資※		71.0億円	57.1億円	57.1億円	68.1億円	57.1億円	49.1億円	49.1億円
損益/月※		-21,389千円	-9,060千円	-6,828千円	-13,930千円	-3,664千円	-1,043千円	-4,774千円
地域需要への対応		△	△	○	◎	◎	◎	○
建築コスト		△	○	○	△	○	◎	◎
収支		△	△	○	△	○	◎	○⇒◎*
職員確保		◎	○	◎	△	○	◎	◎
基本構想との違い		-	小	小	大	大	大	中

※初期投資、損益/月は、概算のため、参考値である。

※【表中の判例】◎：優れている ○：比較的優れている △：比較的劣後する

*急性期病床を将来的に回復期へ機能転換していくことにより、収支が改善していく可能性がある。

本資料は、ご参考のために野村ヘルスケア・サポート&アドバイザー株式会社が独自に作成したものです。

本資料に関する事項について貴社が意思決定を行う場合には、事前に貴社の弁護士、会計士、税理士等にご確認いただきますようお願い申し上げます。

本資料は、新聞その他の情報メディアによる報道、民間調査機関等による各種刊行物、インターネットホームページ、有価証券報告書及びプレスリリース等の情報に基づいて作成しておりますが、野村ヘルスケア・サポート&アドバイザー株式会社はそれらの情報を、独自の検証を行うことなく、そのまま利用しており、その正確性及び完全性に関して責任を負うものではありません。

また、本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ヘルスケア・サポート&アドバイザー株式会社に属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。